

高等学校 令和7年度 教科 水産 科目 資源増殖

教 科： 水産 科 目： 資源増殖 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 B 組～ 組

教科担当者：（B組： 堺 ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ 資源増殖（文部科学省） ）

教科 水産 の目標：

【知 識 及 び 技 能】水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

科 目 資源増殖 の目標：		
【知識及び技術】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
資源増殖について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	資源増殖に関する課題を発見し、生物生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	安全な水産物の増養殖と生産性の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	・ガイダンス 年間の授業スケジュール説明 ・資源増殖の概要 ①増養殖技術の変遷 ②増養殖技術	・増養殖の歴史と技術の発展について理解させる ・増殖と養殖の違い、様々な施設手法とそのメリットデメリットについて理解させる	【知識及び技術】 増養殖の歴史と技術の発展について、増殖と養殖の違い、様々な施設手法とそのメリットデメリットについて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 現在の養殖技術の課題点や問題点を発見し、合理的かつ創造的に解決策を模索できる 【学びに向かう力、人間性等】 より良い養殖技術の発展に関して主体性を持ち協同を意識して取り組んでいる	○	○	○	2
	・資源増殖の概要 ③種苗生産 ・飼料、餌料 ①養殖飼料の現状と特徴	・種苗生産と中間育成の違いを理解させる。 ・餌料と飼料の違いと特徴、課題について理解させる。	【知識及び技術】 増養殖業の基本でもある種苗の確保について、また餌の現状と課題について十分に理解している 【思考力、判断力、表現力等】 種苗生産や餌の課題点や問題点を発見し、合理的かつ創造的に解決策を模索できる 【学びに向かう力、人間性等】 より良い養殖技術の発展に関して主体性を持ち協同を意識して取り組んでいる	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	・飼料、餌料 ②魚介類の摂餌、消化と吸収、栄養要求 ③初期餌料	・魚介類の摂餌方法や消化吸収の効率、餌の栄養成分について理解させる。 ・シオミズツボワムシやアルテミアと言った初期餌料の特徴や培養方法について理解させる	【知識及び技術】 魚介類の摂餌方法や餌の消化吸収、各栄養素の要求量、初期餌料の種類や培養法、使用方法について十分に理解している 【思考力、判断力、表現力等】 飼料・餌料、初期餌料についての課題点や問題点を発見し、合理的かつ創造的に解決策を模索できる 【学びに向かう力、人間性等】 より良い飼料・餌料の開発に関して主体性を持ち協同を意識して取り組んでいる	○	○	○	8
	・飼料、餌料 ④飼料原料と配合飼料	・飼料が持つ問題点や課題点を理解させると共に、配合飼料の特徴や種類についても理解させる	【知識及び技術】 飼料原料と配合飼料について課題や問題点、種類や特徴を十分に理解している 【思考力、判断力、表現力等】 飼料原料と配合飼料についての課題点や問題点を発見し、合理的かつ創造的に解決策を模索できる 【学びに向かう力、人間性等】 飼料原料に関する課題点を理解し主体性を持ち協同を意識して取り組んでいる	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	・病気と病害対策 ①病気の種類と流行 ②病気の診断と対策	・魚病の種類や特徴、感染拡大の原因を理解させて、基本的には治療ではなく予防が重要であることを理解させる。	【知識及び技術】 病気の種類や特徴、診断、感染の拡大と予防方法について十分に理解している 【思考力、判断力、表現力等】 魚病の予防についての課題点や問題点を発見し、合理的かつ創造的に解決策を模索できる 【学びに向かう力、人間性等】 病気の予防の重要性を十分に理解し主体性を持ち協同を意識して取り組んでいる	○	○	○	24
2 学 期	定期考査			○	○		1

3 学 期	- 生産物の安定供給と環境対策 ①水産物の流通と安全管理 ②HACCPシステム ③食品トレーサビリティ ④電子タグを利用した流通 ⑤水産エコラベル ⑥ICTを活用した生産管理 ⑦増養殖における環境対策	- 食品の流通に関してHACCPやトレーサビリティと言った手法を理解させ、食の安全管理について学ばせる。 - 自家汚染による環境悪化を例に、増養殖業の環境対策を学ばせる	【知識及び技術】 - 魚介類の安定供給と安全な輸送・加工手法、自家汚染対策を十分に理解している 【思考力、判断力、表現力等】 - 安全な魚介類の提供や自家汚染についての課題点や問題点を発見し、合理的かつ創造的に解決策を模索できる 【学びに向かう力、人間性等】 - 食品の安全性や自家汚染を十分に理解し主体性を持ち協同を意識して取り組んでいる	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
							合計
							70